



# システム設定 API メソッド

## Element Software

NetApp  
November 13, 2025

# 目次

システム設定 API メソッド .....	1
DisableBmcColdReset .....	1
パラメータ .....	1
戻り値 .....	1
要求例 .....	1
応答例 .....	1
新規導入バージョン .....	2
DisableClusterSsh .....	2
パラメータ .....	2
戻り値 .....	2
要求例 .....	2
応答例 .....	2
新規導入バージョン .....	3
DisableSnmp .....	3
パラメータ .....	3
戻り値 .....	3
要求例 .....	3
応答例 .....	4
新規導入バージョン .....	4
EnableBmcColdReset .....	4
パラメータ .....	4
戻り値 .....	4
要求例 .....	5
応答例 .....	5
新規導入バージョン .....	5
EnableClusterSsh .....	5
パラメータ .....	5
戻り値 .....	5
要求例 .....	6
応答例 .....	6
新規導入バージョン .....	7
EnableSnmp .....	7
パラメータ .....	7
戻り値 .....	8
要求例 .....	8
応答例 .....	8
新規導入バージョン .....	8
GetBinAssignmentProperties のプロパティ .....	8
パラメータ .....	9

戻り値	9
要求例	9
応答例	9
新規導入バージョン	11
GetClusterSshInfo	11
パラメータ	11
戻り値	11
要求例	11
応答例	12
新規導入バージョン	12
GetClusterStructure ( GetClusterStructure )	12
パラメータ	13
戻り値	13
要求例	13
応答例	13
新規導入バージョン	13
GetFipsReport のようになりました	13
パラメータ	14
戻り値	14
要求例	14
応答例	14
新規導入バージョン	15
GetLldpConfig	15
パラメータ	15
戻り値	15
要求例	16
応答例	16
GetLldpInfo	16
パラメータ	16
戻り値	16
要求例	17
応答例	17
新規導入バージョン	17
詳細については、こちらをご覧ください	17
GetNodeFipsDrivesReport	17
パラメータ	17
戻り値	17
要求例	18
応答例	18
新規導入バージョン	18
GetNtpInfo を使用します	19

パラメータ	19
戻り値	19
要求例	19
応答例	19
新規導入バージョン	20
GetNvramInfo をクリックします	20
パラメータ	20
戻り値	20
要求例	20
応答例	21
新規導入バージョン	21
詳細については、こちらをご覧ください	21
GetProtectionDomainLayout の略	21
パラメータ	21
戻り値	21
要求例	21
応答例	22
新規導入バージョン	23
GetRemoteLoggingHosts	23
パラメータ	23
戻り値	23
要求例	24
応答例	24
新規導入バージョン	24
詳細については、こちらをご覧ください	25
GetSnmpACL を追加します	25
パラメータ	25
戻り値	25
要求例	25
応答例	25
新規導入バージョン	26
GetSnmpInfo を追加します	26
パラメータ	26
戻り値	26
要求例	27
応答例	27
新規導入バージョン	28
詳細については、こちらをご覧ください	28
GetSnmpState	28
パラメータ	28
戻り値	28

要求例	29
応答例	29
新規導入バージョン	30
詳細については、こちらをご覧ください	30
GetSnmpTrapInfo をクリックします	30
パラメータ	30
戻り値	30
要求例	31
応答例	31
新規導入バージョン	31
GetSSLCertificate	32
パラメータ	32
戻り値	32
要求例	32
応答例	32
新規導入バージョン	33
ListProtectionDomainLevels	33
パラメータ	34
戻り値	34
要求例	34
応答例	34
新規導入バージョン	36
SSLCertificate を削除します	36
パラメータ	36
戻り値	36
要求例	36
応答例	36
新規導入バージョン	36
ResetNetworkConfig (リセット)	36
パラメータ	37
戻り値	37
要求例	37
応答例	37
新規導入バージョン	37
ResetentalTlsCiphers のサポート	37
パラメータ	37
戻り値	37
要求例	37
応答例	38
新規導入バージョン	38
SetClusterStructure の場合	38

パラメータ	38
戻り値	38
要求例	39
応答例	39
新規導入バージョン	39
SetLldpConfig	39
パラメータ	39
戻り値	40
要求例	40
応答例	40
SetNtpInfo の値を指定します	41
パラメータ	41
戻り値	41
要求例	41
応答例	42
新規導入バージョン	42
SetProtectionDomainLayout の略	42
パラメータ	43
戻り値	43
要求例	43
応答例	45
新規導入バージョン	46
SetRemoteLoggingHosts	46
パラメータ	46
戻り値	46
要求例	47
応答例	47
新規導入バージョン	47
詳細については、こちらをご覧ください	47
SetSnmpACL の場合	47
パラメータ	48
戻り値	48
要求例	48
応答例	49
新規導入バージョン	49
詳細については、こちらをご覧ください	49
SetSnmpInfo のサービス	49
パラメータ	49
戻り値	50
要求例 - SNMP v3 を有効にした場合	50
SNMP v2 を有効にした場合の要求例	51

応答例	51
新規導入バージョン	52
SetSnmpTrapInfo の順にクリックしてください	52
パラメータ	52
戻り値	53
要求例	53
応答例	53
新規導入バージョン	54
SetSSLCertificate	54
パラメータ	54
戻り値	54
要求例	54
応答例	56
新規導入バージョン	56
SnmpSendTestTraps のことです	56
パラメータ	56
戻り値	56
要求例	56
応答例	57
新規導入バージョン	57
TestAddressAvailability の値	57
パラメータ	57
戻り値	58
要求例	58
応答例	58
新規導入バージョン	59

# システム設定 API メソッド

## DisableBmcColdReset

「DisableBmcColdReset」メソッドを使用すると、クラスタ内のすべてのノードのベースボード管理コントローラ（BMC）を定期的にリセットするバックグラウンドタスクを無効にできます。

### パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
cBmcResetDurationMinutes	リセット間隔の時間を返します。 この間隔は、コマンドの完了後は常に 0 にする必要があります。	整数

### 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
    "method": "DisableBmcColdReset",  
    "params": {},  
    "id" : 1  
}
```

### 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
    "id": 1,  
    "result": {  
        "cBmcResetDurationMinutes": 0  
    }  
}
```

## 新規導入バージョン

12.0

## DisableClusterSsh

「DisableClusterSsh」メソッドを使用して、ストレージクラスタ全体の SSH サービスを無効にすることができます。ストレージクラスタにノードを追加すると、新しいノードにはこのクラスタ全体の設定が継承されます。

### パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
結果	ストレージクラスタの SSH サービスのステータス、SSH が無効になるまでの時間、および各ノードの SSH サービスのステータスを含む JSON オブジェクト。	JSON オブジェクト

### 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "DisableClusterSsh",  
  "params": {  
    },  
  "id" : 1  
}
```

### 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
    "id": 1,  
    "result" : {  
        "enabled": true,  
        "timeRemaining": "00:43:21",  
        "nodes": [  
            {  
                "nodeID": 1,  
                "enabled": true  
            },  
            {  
                "nodeID": 2,  
                "enabled": true  
            },  
            {  
                "nodeID": 3,  
                "enabled": false  
            },  
            {  
                "nodeID": 4,  
                "enabled": false  
            } ]  
        }  
    }  
}
```

## 新規導入バージョン

10.3

## DisableSnmp

「DisableSnmp」メソッドを使用すると、クラスタノードの SNMP を無効にできます。

### パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

### 戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

### 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "DisableSnmp",  
  "params": {},  
  "id" : 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "result" : {},  
  "id" : 1  
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

## EnableBmcColdReset

「EnableBmcColdReset」メソッドを使用すると、クラスタ内のすべてのノードのベースボード管理コントローラ（BMC）を定期的にリセットするバックグラウンドタスクを有効にできます。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
タイムアウト	BMC のリセット処理の間隔（分）。	整数	20160 分	いいえ

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
cBmcResetDurationMinutes	リセット間隔の時間を返します。 この間隔は、コマンドの完了後は常に 0 にする必要があります。	整数

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
    "method": "EnableBmcColdReset",  
    "params": {  
        "timeout": 36000  
    },  
    "id": 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
    "id": 1,  
    "result": {  
        "cBmcResetDurationMinutes": 36000  
    }  
}
```

## 新規導入バージョン

12.0

## EnableClusterSsh

「EnableClusterSsh」メソッドを使用すると、ストレージクラスタ内のすべてのノードの SSH サービスを有効にすることができます。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
期間	SSH サービスを有効にしておく時間。	文字列	なし	はい。

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
結果	ストレージクラスタの SSH サービスのステータス、SSH が無効になるまでの時間、および各ノードの SSH サービスのステータスを含む JSON オブジェクト。	JSON オブジェクト

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "EnableClusterSsh",
  "params": {
    "duration" : "02:00:00.00"
  },
  "id" : 1
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
    "id": 1,  
    "result": {  
        "enabled": true,  
        "timeRemaining": "00:43:21",  
        "nodes": [  
            {  
                "nodeID": 1,  
                "enabled": true  
            },  
            {  
                "nodeID": 2,  
                "enabled": true  
            },  
            {  
                "nodeID": 3,  
                "enabled": false  
            },  
            {  
                "nodeID": 4,  
                "enabled": false  
            }]  
    }  
}
```

## 新規導入バージョン

10.3

## EnableSnmp

EnableSnmp メソッドを使用すると、クラスタ・ノード上で SNMP を有効にできます。SNMP を有効にすると、アクション環境クラスタ内のすべてのノードが処理され、指定した値によって、以前の「EnableSnmp」呼び出しで設定されたすべての値が置き換えられます。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
snmpV3Enabled を使用します	true に設定すると、クラスタ内の各ノードで SNMP v3 が有効になります。false に設定すると、SNMP v2 が有効になります。	ブール値	いいえ	いいえ

## 戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "EnableSnmp",
  "params": {
    "snmpV3Enabled" : "true"
  },
  "id" : 1
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id" : 1,
  "result" : {}
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

## GetBinAssignmentProperties のプロパティ

「GetBinAssignmentProperties」メソッドを使用すると、データベース内の bin 割り当てプロパティを取得できます。

## パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
プロパティ	は、データベース内の現在のすべての bin 割り当てのプロパティを示しています。	binAssignmentProperties の配列

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "GetBinAssignmentProperties",  
  "params": {  
  },  
  "id": 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id": 1,  
  "result": {  
    "properties": {  
      "algorithmRuntimeMS": 1105,  
      "areReplicasValid": true,  
      "binCount": 65536,  
      "isBalanced": true,  
      "isStable": true,  
      "isWellCoupled": false,  
      "layout": [  
        {  
          "protectionDomainName": "1",  
          "services": [  
            {  
              "budget": 7281,  
              "id": 1  
            }  
          ]  
        }  
      ]  
    }  
  }  
}
```

```
        "serviceID": 16
    },
    {
        "budget": 7281,
        "serviceID": 19
    },
    {
        "budget": 7281,
        "serviceID": 24
    }
]
},
{
    "protectionDomainName": "2",
    "services": [
        {
            "budget": 7281,
            "serviceID": 17
        },
        {
            "budget": 7281,
            "serviceID": 20
        },
        {
            "budget": 7281,
            "serviceID": 22
        }
    ]
},
{
    "protectionDomainName": "3",
    "services": [
        {
            "budget": 7281,
            "serviceID": 18
        },
        {
            "budget": 7281,
            "serviceID": 21
        },
        {
            "budget": 7281,
            "serviceID": 23
        }
    ]
}
```

```

        ],
        "numSwaps": 0,
        "numUpdatingBins": 0,
        "protectionDomainType": "node",
        "reason": "Final",
        "replicationCount": 2,
        "requestRebalance": false,
        "serviceStrandedCapacities": [],
        "timePublished": "2020-04-02T18:34:07.807681Z",
        "validSchemes": []
    }
}
}

```

## 新規導入バージョン

12.0

## GetClusterSshInfo

'GetClusterSshInfo' メソッドを使用すると、ストレージクラスタ全体の SSH サービスのステータスを照会できます。

### パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
結果	ストレージクラスタの SSH サービスのステータス、SSH が無効になるまでの時間、および各ノードの SSH サービスのステータスを含む JSON オブジェクト。	JSON オブジェクト

### 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "GetClusterSshInfo",  
  "params": {},  
  "id" : 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id": 1,  
  "result" : {  
    "enabled": "true",  
    "timeRemaining": "00:43:21",  
    "nodes": [  
      {  
        "nodeID": 1,  
        "enabled": true  
      },  
      {  
        "nodeID": 2,  
        "enabled": true  
      },  
      {  
        "nodeID": 3,  
        "enabled": false  
      },  
      {  
        "nodeID": 4,  
        "enabled": false  
      } ]  
    }  
}
```

## 新規導入バージョン

10.3

## GetClusterStructure ( GetClusterStructure )

GetClusterStructure メソッドを使用すると、現在のストレージ・クラスタ構成情報をバックアップできます。このメソッドの実行中にストレージクラスタ構成が変更された場合

合、正しい構成がバックアップされる保証はありません。このデータをテキストファイルに保存して、災害発生時に他のクラスタまたは同じクラスタでリストアできます。

## パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
結果	現在のストレージクラスタ構成情報 を含む JSON オブジェクト。	<a href="#">クラスタ構造</a>

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "GetClusterStructure",  
  "params": {},  
  "id" : 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id": 1,  
  "result" : <clusterStructure object containing configuration  
information>  
}
```

## 新規導入バージョン

10.3

## GetFipsReport のようになりました

「GetFipsReport」メソッドを使用すると、ストレージクラスタ内のすべてのノードの FIPS 140-2 暗号化機能サポートステータスを確認できます。

## パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
結果	すべてのノードの FIPS 140-2 機能サポート状況、および照会に応答しなかった各ノードのエラー情報を含む JSON オブジェクト。	<a href="#">tipsReport</a>

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "GetFipsReport",  
  "params": {},  
  "id" : 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
    "id": 1,  
    "result": {  
        "nodes": [  
            {  
                "nodeID": 1,  
                "fipsDrives": "None",  
                "httpsEnabled": true  
            },  
            {  
                "nodeID": 3,  
                "fipsDrives": "None",  
                "httpsEnabled": true  
            }  
        ],  
        "errorNodes": [  
            {  
                "nodeID": 2,  
                "error": {  
                    "message": "The RPC timed out.",  
                    "name": "xRpcTimeout"  
                }  
            }  
        ]  
    }  
}
```

## 新規導入バージョン

10.3

## GetLldpConfig

GetLldpConfig メソッドを使用すると、ストレージクラスタの各ノードの Link Layer Discovery Protocol ( LLDP ) の設定を取得できます。

### パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
l1dpConfig	ストレージクラスタの LLDP 設定に関する情報。	JSON オブジェクト

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "GetL1dpConfig",
  "id" : 1
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": null,
  "result": {
    "l1dpConfig": {
      "enableLldp": true,
      "enableMed": false,
      "enableOtherProtocols": true
    }
  }
}
```

## GetL1dpInfo

GetL1dpInfo メソッドを使用すると、ストレージクラスタの各ノードまたは個々のストレージノードの Link Layer Discovery Protocol (LLDP) 設定を取得できます。

### パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
LldpInfo	ストレージクラスタの各ノードの シャーシ、インターフェイス、お よびネイバーの LLDP 設定に関す る情報。	JSON オブジェクト

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "GetLldpInfo",
  "id" : 1
}
```

## 応答例

この応答例は分量が多いため、補足のトピックに記載しています。

### 新規導入バージョン

11.0

詳細については、こちらをご覧ください

[GetLldpInfo](#)

## getNodeFipsDrivesReport

「getNodeFipsDrivesReport」メソッドを使用すると、ストレージクラスタ内の単一ノードの FIPS 140-2 ドライブ暗号化機能ステータスを確認できます。このメソッドは個々のストレージノードに対して実行する必要があります。

### パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
fipsDrives	<p>このノードの FIPS 140-2 機能サポート状況を含む JSON オブジェクト。有効な値は次のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• None : ノードは FIPS に対応していません。</li> <li>• Partial : ノードは FIPS に対応していますが、ノード内の一部のドライブが FIPS ドライブではありません。</li> <li>• Ready : ノードは FIPS に対応しており、ノード内のすべてのドライブが FIPS ドライブです（ドライブが存在しない場合も含む）。</li> </ul>	文字列

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "GetNodeFipsDrivesReport",
  "params": {},
  "id" : 1
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "fipsDrives": "None"
  }
}
```

## 新規導入バージョン

11.5

## GetNtpInfo を使用します

GetNtpInfo メソッドを使用すると、現在のネットワークタイムプロトコル（NTP）設定情報を取得できます。

### パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
サーバ	NTP サーバのリスト。	文字列の配列
ブロードキャストクライアント	クラスタ内のノードがブロードキャスト NTP メッセージをリスンしているかどうかを示します。有効な値は次のとおり <ul style="list-style-type: none"><li>• 正しいです</li><li>• いいえ</li></ul>	ブール値

### 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "GetNtpInfo",
  "params": {},
  "id" : 1
}
```

### 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id" : 1,
  "result" : {
    "broadcastclient" : false,
    "servers" : [ "us.pool.ntp.org" ]
  }
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

## GetNvramInfo をクリックします

'GetNvramInfo' メソッドを使用すると 'NVRAM' カードに関する各ノードから情報を取得できます

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
[-force]	このメソッドをクラスタのすべてのノードに対して実行するには、force パラメータを指定する必要があります。	ブール値	なし	はい。

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
nvramInfo	NVRAM カードで検出されたイベントとエラーの配列。	JSON オブジェクト

### 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "GetNvramInfo",
  "params": {
    "force": true
  },
  "id": 1
}
```

## 応答例

この応答例は分量が多いため、補足のトピックに記載しています。

### 新規導入バージョン

9.6

詳細については、こちらをご覧ください

[GetNvramInfo をクリックします](#)

## GetProtectionDomainLayout の略

「GetProtectionDomainLayout」メソッドを使用すると、クラスタのすべての保護ドメイン情報を返すことができます。これには、各ノードがどのシャーシとどのカスタム保護ドメインにあるかが含まれます。

### パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
protectionDomainLayout の略	各ノードとそれに関連付けられた保護ドメインのリスト。	の JSON リスト <a href="#">"nodeProtectionDomains" オブジェクト。</a>

### 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
    "method": "GetProtectionDomainLayout",  
    "params": {},  
    "id" : 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
    "id": 1,  
    "result": {  
        "protectionDomainLayout": [  
            {  
                "nodeID": 1,  
                "protectionDomains": [  
                    {  
                        "protectionDomainName": "QTFCR2914008D",  
                        "protectionDomainType": "chassis"  
                    },  
                    {  
                        "protectionDomainName": "Rack-1",  
                        "protectionDomainType": "custom"  
                    }  
                ]  
            },  
            {  
                "nodeID": 2,  
                "protectionDomains": [  
                    {  
                        "protectionDomainName": "QTFCR291500EA",  
                        "protectionDomainType": "chassis"  
                    },  
                    {  
                        "protectionDomainName": "Rack-1",  
                        "protectionDomainType": "custom"  
                    }  
                ]  
            },  
            {  
                "nodeID": 3,  
                "protectionDomains": [  
                    {  
                        "protectionDomainName": "QTFCR291500EA",  
                        "protectionDomainType": "chassis"  
                    },  
                    {  
                        "protectionDomainName": "Rack-1",  
                        "protectionDomainType": "custom"  
                    }  
                ]  
            }  
        ]  
    }  
}
```

```
        "protectionDomainName": "QTFCR291500C3",
        "protectionDomainType": "chassis"
    },
    {
        "protectionDomainName": "Rack-2",
        "protectionDomainType": "custom"
    }
]
},
{
    "nodeID": 4,
    "protectionDomains": [
        {
            "protectionDomainName": "QTFCR291400E6",
            "protectionDomainType": "chassis"
        },
        {
            "protectionDomainName": "Rack-2",
            "protectionDomainType": "custom"
        }
    ]
}
}
```

## 新規導入バージョン

12.0

## GetRemoteLoggingHosts

「GetRemoteLoggingHosts」メソッドを使用すると、現在のログサーバのリストを取得できます。

### パラメータ

入力パラメータはありません GetRemoteLoggingHosts。

### 戻り値

その `GetRemoteLoggingHosts` このメソッドには次の戻り値があります。

名前	説明	を入力します
リモートホスト	転送されたログ情報を受信するように構成されたホストの IP アドレス、FQDN、およびポート情報を一覧表示します。	<a href="#">loggingServer の場合</a> 配列

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "id": 3386609,
  "method": "GetRemoteLoggingHosts",
  "params": {}
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 3386609,
  "result": {
    "remoteHosts": [
      {
        "host": "172.16.1.20",
        "port": 10514
      },
      {
        "host": "172.16.1.25"
      },
      {
        "host": "syslogs.lab.company.net",
        "port": 514
      }
    ]
  }
}
```

## 新規導入バージョン

ONTAP 9.6 以降で使用可能です。

詳細については、こちらをご覧ください

[SetRemoteLoggingHosts](#)

## GetSnmpACL を追加します

「GetSnmpACL」メソッドを使用すると、クラスタノードの現在の SNMP アクセス権限を取得できます。

### パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
ネットワーク	ネットワーク、およびクラスタノードで実行されている SNMP サーバに対するアクセスタイプのリスト。この値は、SNMP v3 が無効になっている場合に表示されます。	<a href="#">ネットワーク 配列</a>
usmUsers	ユーザ、およびクラスタノードで実行されている SNMP サーバに対するアクセスタイプのリスト。この値は、SNMP v3 が有効になっている場合に表示されます。	<a href="#">usmUser 配列</a>

### 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "GetSnmpACL",
  "params": {},
  "id" : 1
}
```

### 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id" : 1,
  "result" : {
    "usmUsers" : [
      {
        "name": "jdoe",
        "access": "rouser",
        "secLevel": "priv",
        "password": "mypassword",
        "passphrase": "mypassphrase",
      }
    ]
  }
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

## GetSnmpInfo を追加します

「GetSnmpInfo」メソッドを使用すると、現在の簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）の設定情報を取得できます。

### パラメータ



Element バージョン 8.0 以降のバージョンでは、GetSnmpInfo は廃止されています。。  
[GetSnmpState および SetSnmpACL の場合](#) メソッドは、GetSnmpInfo メソッドに代わるものです。

このメソッドには入力パラメータはありません。

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
ネットワーク	SNMP で有効なネットワークとアクセスタイプのリスト。* 注： * ネットワークは、SNMP v3 が無効な場合にのみ表示されます。	<a href="#">ネットワーク</a>

名前	説明	を入力します
有効	クラスタ内のノードが SNMP 用に設定されているかどうか。有効な値は次のとおり <ul style="list-style-type: none"><li>・正しいです</li><li>・いいえ</li></ul>	ブール値
snmpV3Enabled を使用します	クラスタ内のノードが SNMP v3 用に設定されている場合。有効な値は次のとおり <ul style="list-style-type: none"><li>・正しいです</li><li>・いいえ</li></ul>	ブール値
usmUsers	SNMP v3 が有効になっている場合は、SNMP のユーザアクセスパラメータのリストがクラスタから返されます。このパラメータは networks パラメータの代わりに返されます。	<a href="#">usmUser</a>

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "GetSnmpInfo",
  "params": {},
  "id" : 1
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
    "id" : 1,  
    "result" : {  
        "enabled" : true,  
        "networks" : [  
            {  
                "access" : "rosys",  
                "cidr" : 0,  
                "community" : "public",  
                "network" : "localhost"  
            }  
        ]  
    }  
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

詳細については、こちらをご覧ください

- [GetSnmpState](#)
- [SetSnmpACL の場合](#)

## GetSnmpState

「GetSnmpState」メソッドを使用すると、SNMP機能の現在の状態を取得できます。

### パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
有効	<p>有効な値は次のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 正しいです</li> <li>• いいえ</li> </ul> <p>デフォルト値は false です。クラス内内のノードが SNMP 用に設定されている場合は true を返します。</p>	ブール値
snmpV3Enabled を使用します	<p>有効な値は次のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 正しいです</li> <li>• いいえ</li> </ul> <p>デフォルト値は false です。クラス内内のノードが SNMP v3 用に設定されている場合は true を返します。</p>	ブール値

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "GetSnmpState",
  "params": {},
  "id" : 1
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id" : 1,
  "result" : {
    "enabled": true,
    "snmpV3Enabled": false
  }
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

詳細については、こちらをご覧ください

[SetSnmpACL の場合](#)

## GetSnmpTrapInfo をクリックします

「GetSnmpTrapInfo」メソッドを使用すると、現在の SNMP トラップの設定情報を取得できます。

### パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
trapRecipients	クラスタによって生成されたトラップを受信するホストのリスト。	<a href="#">snmpTrapRecipientのこと</a> 配列
clusterFaultTrapsEnabled	true の場合、クラスタ障害が記録されたときにトラップ受信者リストに solidFireClusterFaultNotification が送信されるように設定されています。	ブール値
clusterFaultResolvedTrapsEnabled	true の場合、クラスタ障害が解決したときにトラップ受信者リストに solidFireClusterFaultResolvedNotification が送信されるように設定されています。	ブール値
clusterEventTrapsEnabled を選択します	true の場合、クラスタイベントが記録されたときにトラップ受信者リストに solidFireClusterEventNotification が送信されるように設定されています。	ブール値

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "GetSnmpTrapInfo"  
  "params": {},  
  "id": 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id": 1,  
  "result": {  
    "clusterEventTrapsEnabled": true,  
    "clusterFaultResolvedTrapsEnabled": true,  
    "clusterFaultTrapsEnabled": true,  
    "trapRecipients": [  
      {  
        "community": "public",  
        "host": "192.168.151.60",  
        "port": 162  
      },  
      {  
        "community": "solidfireAlerts",  
        "host": "NetworkMonitor",  
        "port": 162  
      },  
      {  
        "community": "wakeup",  
        "host": "PhoneHomeAlerter",  
        "port": 1008  
      }  
    ]  
  }  
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

# GetSSLCertificate

「GetSSLCertificate」メソッドを使用すると、クラスタのストレージノードで現在アクティブになっている SSL 証明書を取得できます。

## パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
証明書	PEM でエンコードされた証明書の完全なテキスト。	文字列
詳細	デコードされた証明書の情報。	JSON オブジェクト

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
    "method" : "GetSSLCertificate",  
    "params" : {},  
    "id" : 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
    "id": 1,  
    "result": {  
        "certificate": "-----BEGIN CERTIFICATE-----  
\\nMIIEdzCCA1+gAwIBAgIJAMwbIhWY43/zMA0GCSqGSIb3DQEBBQUAMIGDMQswCQYD\\nVQQGEw  
JUvZELMAkGA1UECBMCT1YxFTATBgnVBAcUDFz1Z2FzLCBCYJ5ITEhMB8G\\nA1UEChMYV2hhdc  
BIYXBwZW5zIGluIFZlZ2FzLi4uMS0wKwYJKoZIhvcNAQkBFh53\\naGF0aGFwcGVuc0B2ZWdhc3  
N0YXlzaW4udmVnYXMwHhcNMTcwMzA4MjI1MDI2WhcN\\nMjcwMzA2MjI1MDI2WjCBgzELMAkGA1  
UEBhMCVVMxCzAJBgNVBAgTAK5WMRUwEwYD\\nVQQHFAXWZWdhcywgQmFieSExITAfBgNVBAoTG  
doYXQgSGFwcGVucyBpbIBWZWdh\\ncy4uLjEtMCsGCSqGSIb3DQEJARYed2hhdGhhcHB1bnNAdm  
VnYXNzdGF5c2luLnZ1\\nZ2FzMIIIBIjANBgkqhkiG9w0BAQEFAAOCAQ8AMIIBCgKCAQEA8U+28f
```

```

nLKQNWEWMR\n6akeDKuehSpS79odLGigI18q1CV/AUY5ZLjqstjBvTJVRv44yoCTgNrx36U7FH
P4\nt6P/Si0aYr4ovx15wDpEM3Qyy5JPB7Je1OB6AD7fmiTweP20HRPzvY+Uz7LYEFC\nmrgrp
GZQF3iOSICBhtLKE5186JVT6j5dg6yjUGQO352ylc9HXHcn6lb/jy10DmVNU\nz0caQwAmIS3J
moyx+zj/Ya4WKq+2SqTAX7bx0F3wHHfXnZ1HnM8fET5N/9A+K61S\n7dg9cyXu4afXcgKy14Ji
NBvqbBjhgJtE76yAy6rTHu0xM3jjdkcb9Y8minzxF+AC\nq+itawIDAQABo4HrMIHoMB0GA1UD
DgQWBBRvvBRPno5S34zGRhrnDJyTsdnEbTCB\nuAYDVR0jBIGwMIGtgbRvvBRPno5S34zGRhrn
DJyTsdnEbaGBiaSBhjCBgzELMAkG\na1UEBhMCVVMxCzAJBgNVBAgTAK5WMRUwEwYDVQQHFAxW
ZWdhcywgQmFieSExITAf\nBgNVBAoTGFdoYXQgSGFwcGVucyBpbIBWZWhcy4uLjEtMCsGCSqG
SIb3DQEJARYe\nnd2hhGhhCHB1bnNAdmVnYXNzdGF5c2luLnZ1Z2FzggkAzBsifZjjf/MwDAYD
VR0T\nBAUwAwEB/zANBgkqhkiG9w0BAQUFAAOCAQEAhVND5s71mQPECwVLfiE/ndtIbnpe\nMq
o5geQHChnN1u5RV9j8aYH9kW2qCDJ5vueZtZ2L1tC4D7JyfS3714rRo1FpX6N\niebEgAaE5e
WvB6zgiAcMRIKqu3DmJ7y3CFGk9dHOlQ+WYnoO/eIMy0coT26JB15H\nnDEwvd1+DwkxnS1cx1v
ERv51g1gua6AE3tBrlov8q1G4zMJboo3YEwMFwxLkxAFXR\nnHgMoPDym099kvc84B1k7HkDGHP
r4tLfVelDJy2zCWIQ5ddbVpyPW2xuE4p4BGx2B\nn7ASOjG+DzUxzwaUI6Jzvs3Xq5Jx8ZAjJDg
10QoQDWND0TeRBsz80nwiouA==\n-----END CERTIFICATE-----\n",
    "details": {
        "issuer": "/C=US/ST=NV/L=Denver/O=NetApp/emailAddress=test@netapptest.org",
        "modulus": "F14FB6F1F9CB290356116311E9A91E0CAB9E852A52EFDA1D2C68A0235F2A94257F0146396
4B8EAB138C1BD325546FE38CA809380DAF1DFA53B1473F8B7A3FF4A2D1A62BE28BF1979C03
A44337432CB924F07B25E94E07A003EDF9A24F078FDB41D162966F63E533ECB6041429AB82
9199405DE239221C047B4B284E75F3A2554FA8F9760EB28D41903B7E76CA573D1D71DC9FA9
5BFE3CA5D0399535467471A430026212DC99A8CB1FB38FF61AE162AAFB64AA4C05FB6D7D05
DF01C77D79D99479CCF1F113E4DFFD03E2BA952EDD83D7325EEE1A7D77202B2D78262341BE
A6C18E1809B44EFAC80CBAAD31EED313378E376471BF58F2688DCF117E002ABE8AD6B",
        "notAfter": "2027-03-06T22:50:26Z",
        "notBefore": "2017-03-08T22:50:26Z",
        "serial": "CC1B221598E37FF3",
        "sha1Fingerprint": "1D:70:7A:6F:18:8A:CD:29:50:C7:95:B1:DD:5E:63:21:F4:FA:6E:21",
        "subject": "/C=US/ST=NV/L=Denver/O=NetApp/emailAddress=test@netapptest.org"
    }
}
}

```

## 新規導入バージョン

10.0

## ListProtectionDomainLevels

「ListProtectionDomainLevels」メソッドを使用すると、ストレージクラスタのトレランスレベルと耐障害性レベルを一覧表示できます。トレランスレベルは障害が発生した

実際にクラスタがデータの読み取りと書き込みを継続できるかどうか、耐障害性レベルは1つ以上の障害からストレージクラスタが自動で自己回復できるかどうかを示します。

## パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
protectionDomainLevels のように入力します	保護ドメインの各レベルのリスト。それぞれのレベルについて、ストレージクラスタのトランザクションと耐障害性の情報が提供されます。	<a href="#">protectionDomainLevel の値</a>

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "ListProtectionDomainLevels",  
  "params": {},  
  "id" : 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id": 1,  
  "result": {  
    "protectionDomainLevels": [  
      {  
        "protectionDomainType": "node",  
        "resiliency": {  
          "protectionSchemeResiliencies": [  
            {  
              "protectionScheme": "doubleHelix",  
              "sustainableFailuresForBlockData": 0,  
              "sustainableFailuresForMetadata": 1  
            }  
          ]  
        }  
      }  
    ]  
  }  
}
```

```

        ],
        "singleFailureThresholdBytesForBlockData": 0,
        "sustainableFailuresForEnsemble": 1
    },
    "tolerance": {
        "protectionSchemeTolerances": [
            {
                "protectionScheme": "doubleHelix",
                "sustainableFailuresForBlockData": 0,
                "sustainableFailuresForMetadata": 1
            }
        ],
        "sustainableFailuresForEnsemble": 1
    }
},
{
    "protectionDomainType": "chassis",
    "resiliency": {
        "protectionSchemeResiliencies": [
            {
                "protectionScheme": "doubleHelix",
                "sustainableFailuresForBlockData": 0,
                "sustainableFailuresForMetadata": 1
            }
        ],
        "singleFailureThresholdBytesForBlockData": 0,
        "sustainableFailuresForEnsemble": 1
    },
    "tolerance": {
        "protectionSchemeTolerances": [
            {
                "protectionScheme": "doubleHelix",
                "sustainableFailuresForBlockData": 0,
                "sustainableFailuresForMetadata": 1
            }
        ],
        "sustainableFailuresForEnsemble": 1
    }
}
]
}

```

## 新規導入バージョン

11.0

## SSLCertificate を削除します

RemoveSSLCertificate メソッドを使用すると、クラスタ内のストレージノードのユーザ SSL 証明書と秘密鍵を削除できます。証明書と秘密鍵を削除すると、以降はストレージノードでデフォルトの証明書と秘密鍵を使用するように設定されます。

### パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

### 戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

### 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method" : "RemoveSSLCertificate",  
  "params" : {},  
  "id" : 3  
}
```

### 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id" : 3,  
  "result" : {}  
}
```

## 新規導入バージョン

10.0

## ResetNetworkConfig (リセット)

「ResetNetworkConfig」メソッドを使用すると、個々のノードのネットワーク設定の

問題を解決できます。このメソッドは、個々のノードのネットワーク設定を工場出荷時のデフォルト設定にリセットします。

## パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

## 戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "ResetNetworkConfig",  
  "params": {},  
  "id" : 1  
}
```

## 応答例

このメソッドは応答を返しません。

## 新規導入バージョン

11.0

## ResetentalTlsCiphers のサポート

「ResetentalTlsCiphers」メソッドを使用すると、追加 TLS 暗号のリストをデフォルトに戻すことができます。このメソッドは、クラスタ全体に対して使用できます。

## パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

## 戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "ResetSupplementalTlsCiphers",  
  "params": {},  
  "id" : 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id" : 1,  
  "result" : {}  
}
```

## 新規導入バージョン

11.3

## SetClusterStructure の場合

「setClusterStructure」メソッドを使用すると、バックアップからストレージクラスタ構成情報をリストアできます。メソッドを呼び出す際に、リストアする構成情報を含む clusterStructure オブジェクトを params パラメータとして渡します。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します
パラメータ	現在のストレージクラスタ構成情報 を含む JSON オブジェクト。	<a href="#">クラスタ構造</a>

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
結果	非同期の結果ハンドル。	asyncHandle

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "SetClusterStructure",  
  "params": <insert clusterStructure object here>,  
  "id" : 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id": 1,  
  "result" : {  
    "asyncHandle": 1  
  }  
}
```

## 新規導入バージョン

10.3

## SetLldpConfig

「setLldpConfig」メソッドを使用すると、ストレージクラスタの Link Layer Discovery Protocol ( LLDP ) を設定できます。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
enableOtherProtocols	CDP、 FDP、 EDP、 および SONMP の他の検出プロトコルの自動使用をイネーブルにします。	ブール値	正しいです	いいえ

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
イネーブル化	Media Endpoint Discovery ( LLDP-MED ) を有効にします。	ブール値	いいえ	いいえ
enableLldp	LLDP を有効または無効にします	ブール値	正しいです	いいえ

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
lldpConfig	新しく変更された設定を含む、ストレージクラスタの現在の LLDP 設定に関する情報。	JSON オブジェクト

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "id": 3920,
  "method": "SetLldpConfig",
  "params": {
    "lldpConfig": {
      "enableMed": true
    }
  }
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 3920,
  "result": {
    "lldpConfig": {
      "enableLldp": true,
      "enableMed": true,
      "enableOtherProtocols": true
    }
  }
}
```

## SetNtpInfo の値を指定します

「ネットワーク情報」メソッドを使用すると、クラスタノードで NTP を設定できます。このインターフェイスで設定した値は、クラスタ内のすべてのノードに適用されます。NTP ブロードキャストサーバがネットワーク上で時刻情報を定期的にブロードキャストする場合は、ノードをブロードキャストクライアントとして設定することもできます。

### パラメータ



インストール時のデフォルトではなく、使用するネットワーク内の NTP サーバを指定してください。

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
サーバ	各ノードの NTP 設定に追加する NTP サーバのリスト。	文字列の配列	なし	はい。
ブロードキャストクライアント	クラスタ内のすべてのノードをブロードキャストクライアントとして有効にします。	ブール値	いいえ	いいえ

### 戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

### 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
    "method": "SetNtpInfo",  
    "params": {  
        "servers" : [  
            "ntpserver1.example.org",  
            "ntpserver2.example.org",  
            "ntpserver3.example.org"  
        ],  
        "broadcastclient" : false  
    },  
    "id" : 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
    "id" : 1,  
    "result" : {}  
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

## SetProtectionDomainLayout の略

「setProtectionDomainLayout」メソッドを使用すると、カスタム保護ドメインにノードを割り当てることができます。

クラスタ内のすべてのアクティブノードに関する情報を指定する必要があります。また、アクティブでないノードについては情報を指定できません。同じシャーシ内のすべてのノードを同じカスタム保護ドメインに割り当てる必要があります。すべてのノードに同じ protectionDomainType を指定する必要があります。ノードやシャーシなど、カスタムではない protectionDomainTypes は含めないでください。これらのいずれかを指定すると、カスタムの保護ドメインは無視され、該当するエラーが返されます。



カスタム保護ドメインは、次の構成ではサポートされません。

- ・共有シャーシを含むストレージクラスタ
- ・2ノードストレージクラスタ

メソッドを使用すると、これらの構成のストレージクラスタでエラーが返されます。

## パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
protectionDomainLayout の略	各ノードの保護ドメイン情報。	の JSON リスト "nodeProtectionDomains" オブジェクト。	なし	はい。

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
protectionDomainLayout の略	各ノードとそれに関連付けられた保護ドメインのリスト。	の JSON リスト "nodeProtectionDomains" オブジェクト。

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
    "id": 1,  
    "method": "SetProtectionDomainLayout",  
    "params": {  
        "protectionDomainLayout": [  
            {  
                "nodeID": 1,  
                "protectionDomains": [  
                    {  
                        "protectionDomainName": "Rack-1",  
                        "protectionDomainType": "custom"  
                    }  
                ]  
            },  
            {  
                "nodeID": 2,  
                "protectionDomains": [  
                    {  
                        "protectionDomainName": "Rack-1",  
                        "protectionDomainType": "custom"  
                    }  
                ]  
            },  
            {  
                "nodeID": 3,  
                "protectionDomains": [  
                    {  
                        "protectionDomainName": "Rack-2",  
                        "protectionDomainType": "custom"  
                    }  
                ]  
            },  
            {  
                "nodeID": 4,  
                "protectionDomains": [  
                    {  
                        "protectionDomainName": "Rack-2",  
                        "protectionDomainType": "custom"  
                    }  
                ]  
            }  
        ]  
    }  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "protectionDomainLayout": [
      {
        "nodeID": 1,
        "protectionDomains": [
          {
            "protectionDomainName": "QTFCR2914008D",
            "protectionDomainType": "chassis"
          },
          {
            "protectionDomainName": "Rack-1",
            "protectionDomainType": "custom"
          }
        ]
      },
      {
        "nodeID": 2,
        "protectionDomains": [
          {
            "protectionDomainName": "QTFCR291500EA",
            "protectionDomainType": "chassis"
          },
          {
            "protectionDomainName": "Rack-1",
            "protectionDomainType": "custom"
          }
        ]
      },
      {
        "nodeID": 3,
        "protectionDomains": [
          {
            "protectionDomainName": "QTFCR291500C3",
            "protectionDomainType": "chassis"
          },
          {
            "protectionDomainName": "Rack-2",
            "protectionDomainType": "custom"
          }
        ]
      }
    ]
  }
}
```

```

        },
        {
            "nodeID": 4,
            "protectionDomains": [
                {
                    "protectionDomainName": "QTFCR291400E6",
                    "protectionDomainType": "chassis"
                },
                {
                    "protectionDomainName": "Rack-2",
                    "protectionDomainType": "custom"
                }
            ]
        }
    ]
}

```

## 新規導入バージョン

12.0

## SetRemoteLoggingHosts

「リモート LoggingHosts」メソッドを使用すると、ストレージクラスタ内のノードから一元化された 1 台以上のログサーバへのリモートロギングを設定できます。リモートロギングは、デフォルトポート 514 を使用して TCP 経由で実行されます。この API は、既存のロギングホストには追加しません。現在のロギングホストをこの API メソッドで指定された新しいホストに置き換えます。「GetRemoteLoggingHosts」を使用して現在のロギングホストを特定し、「SetRemoteLoggingHosts」を使用して現在のロギングホストと新しいロギングホストのリストを設定できます。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
リモートホスト	ログメッセージの受信者であるホストのリスト。	<a href="#">loggingServer の場合</a> 配列	なし	はい。

### 戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
    "id": 1,  
    "method": "SetRemoteLoggingHosts",  
    "params": {  
        "remoteHosts": [  
            {  
                "host": "172.16.1.20",  
                "port": 10514  
            },  
            {  
                "host": "172.16.1.25"  
            },  
            {  
                "host": "syslogs.lab.company.net",  
                "port": 514  
            }  
        ]  
    }  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
    "id" : 1,  
    "result" : {}  
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

詳細については、こちらをご覧ください

[GetRemoteLoggingHosts](#)

## SetSnmpACL の場合

「SnmpACL」メソッドを使用すると、クラスタノードの SNMP アクセス権限を設定で

きます。このインターフェイスで設定した値はクラスタ内のすべてのノードに適用され、指定した値により、以前の「SnmpACL」の呼び出しで設定されたすべての値が置き換えられます。また、このインターフェイスで設定した値により、すべてのネットワークまたはusmUsers 値が「SetSnmpInfo」メソッドで設定されたすべての値に置き換えられます。

## パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
ネットワーク	ネットワーク、およびクラスタノードで実行されている SNMP サーバに対するアクセスタイプのリスト。指定可能なネットワークの値については、SNMP network オブジェクトを参照してください。このパラメータは、SNMP v3 が無効になっている場合に必要です。	ネットワーク	なし	いいえ
usmUsers	ユーザ、およびクラスタノードで実行されている SNMP サーバに対するアクセスタイプのリスト。このパラメータは、SNMP v3 が有効になっている場合に必要です。	usmUser	なし	いいえ

## 戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
    "method": "SetSnmpACL",  
    "params": {  
        "usmUsers" : [  
            {  
                "name": "jdoe",  
                "access": "rouser",  
                "secLevel": "priv",  
                "password": "mypassword",  
                "passphrase": "mypassphrase",  
            }  
        ]  
    },  
    "id" : 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
    "id" : 1,  
    "result" : {}  
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

詳細については、こちらをご覧ください

[SetSnmpInfo のサービス](#)

## SetSnmpInfo のサービス

「SnmpInfo」メソッドを使用すると、クラスタノードで SNMP バージョン 2 およびバージョン 3 を設定できます。このインターフェイスで設定した値はクラスタ内のすべてのノードに適用され、指定した値により、以前の「SnmpInfo」の呼び出しで設定されたすべての値が置き換えられます。

### パラメータ



SetSnmplInfo は、 Element バージョン 6.0 以降では廃止されています。を使用します  
[EnableSnmp](#) および [SetSnmpACL](#) の場合 代わりにメソッドを使用します

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
ネットワーク	ネットワーク、およびクラスタノードで実行されている SNMP サーバに対するアクセスタイルのリスト。SNMP を参照してください <a href="#">ネットワーク 指定可能な値のオブジェクト</a> 。このパラメータは SNMP v2 の場合のみ必要です。	ネットワーク 配列	なし	いいえ
有効	true に設定すると、クラスタ内の各ノードで SNMP が有効になります。	ブール値	いいえ	いいえ
snmpV3Enabled を使用します	true に設定すると、クラスタ内の各ノードで SNMP v3 が有効になります。	ブール値	いいえ	いいえ
usmUsers	SNMP v3 を有効にする場合は、networks パラメータの代わりにこの値を指定する必要があります。このパラメータは、SNMP v3 の場合のみ必要です。	usmUser	なし	いいえ

## 戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

## 要求例 - SNMP v3 を有効にした場合

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "SetSnmpInfo",
  "params": {
    "enabled": true,
    "snmpV3Enabled": true,
    "usmUsers": [
      {
        "name": "user1",
        "access": "rouser",
        "secLevel": "auth",
        "password": "namex1",
        "passphrase": "yourpassphrase"
      }
    ]
  },
  "id": 1
}
```

## SNMP v2 を有効にした場合の要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "SetSnmpInfo",
  "params": {
    "enabled": true,
    "snmpV3Enabled": false,
    "networks": [
      {
        "community": "public",
        "access": "ro",
        "network": "localhost",
      }
    ]
  },
  "id": 1
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id" : 1
  "result" :{
  }
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

## SetSnmpTrapInfo の順にクリックしてください

「getSnmpTrapInfo」メソッドを使用すると、クラスタ SNMP 通知（トラップ）の生成を有効または無効にしたり、通知を受信する一連のホストを指定したりできます。各 'SetSnmpTrapInfo' メソッド呼び出しで渡す値によって、以前の呼び出しで設定されたすべての値が置き換えられます。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します
trapRecipients	ストレージクラスタによって生成されたトラップを受信するホストのリスト。いずれかのトラップタイプが有効になっている場合は、少なくとも 1 つのオブジェクトが必要です。このパラメータは、いずれかのブーリアンパラメータが true に設定されている場合にのみ必要です。（デフォルト値なし。必要ありません）	<a href="#">snmpTrapRecipient のこと</a> 配列
clusterFaultTrapsEnabled	true に設定した場合、クラスタ障害が記録されると、設定されたトラップ受信者リストに対して対応するクラスタ障害通知が送信されます。デフォルト値： false 必要ありません	ブール値
clusterFaultResolvedTrapsEnabled	true に設定した場合、クラスタ障害が解決すると、設定されたトラップ受信者リストに対して対応するクラスタ障害解決通知が送信されます。デフォルト値： false 必要ありません	ブール値

名前	説明	を入力します
clusterEventTrapsEnabled を選択します	true に設定した場合、クラスタイベントが記録されると、設定されたトラップ受信者リストに対して対応するクラスタイベント通知が送信されます。デフォルト値：false 必要ありません	ブール値

## 戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "SetSnmpTrapInfo",
  "params": {
    "clusterFaultTrapsEnabled": true,
    "clusterFaultResolvedTrapsEnabled": true,
    "clusterEventTrapsEnabled": true,
    "trapRecipients": [
      {
        "host": "192.30.0.10",
        "port": 162,
        "community": "public"
      }
    ],
    "id": 1
  }
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id" : 1,
  "result" : {}
}
```

## SetSSLCertificate

「SSL 証明書」メソッドを使用すると、クラスタ内のストレージノードに対してユーザの SSL 証明書と秘密鍵を設定できます。



APIを使用したら、管理ノードをリブートする必要があります。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
証明書	PEM でエンコードされたテキストバージョンの証明書。 注：* ノード証明書またはクラスタ証明書を設定する場合、証明書には serverAuth の ExtendedKeyUsage 拡張子を含める必要があります。この拡張機能により、一般的なオペレーティングシステムやブラウザでエラーが発生することなく証明書を使用できます。拡張子がない場合、API は無効な証明書として拒否します。	文字列	なし	はい。
privatekey を入力します	PEM でエンコードされたテキストバージョンの秘密鍵。	文字列	なし	はい。

### 戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

### 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```

{
    "method" : "SetSSLCertificate",
    "params" : {
        "privateKey": "-----BEGIN RSA PRIVATE KEY-----
\nMIIEowIBAAKCAQEA8U+28fnLKQNWEWMR6akeDKuehSpS79odLGigI18q1CV/AUY5\nzLjqst
jBvTJVRv44yoCTgNrx36U7FHP4t6P/Si0aYr4ovx15wDpEM3Qyy5JPB7Je\nl0B6AD7fmiTweP
20HRYpZvY+Uz7LYEFCmrgpGZQF3i0SiChtLKE5186JVT6j5dg\nn6yjUGQO352ylc9HXHcn6lb
/jy10DmVNUZ0caQwAmIS3Jmoyx+zj/Ya4WKq+2SqTA\nnX7bX0F3wHHfXnZ1HnM8fET5N/9A+K6
1S7dg9cyXu4afXcgKy14JiNBvqbBjhgJtE\nn76yAy6rTHu0xM3jjdkcb9Y8miNzxF+ACq+itaw
IDAQABoIBAH1j1IZr6/sltqVW\nn00qVC/49dyNu+KWVSq92ti9rFe7hBPueh9gk1h78hP9Qli
tLkir3YK4GFsTFUMux\nn7z1NRcxA/4LrmLSkAjW2kRXDFv12bwZq0ua9NefGw9208D2OZvbuOx
k7Put2p6se\nfgNzSjf2SI5DIX3UMe5dDN5FByu52CJ9mI4U16ngbWln2wc4nsxJg0aAEkzb7w
nq\nnt+Am5/VuLLI6rGiG6oHEW0oGSuH1lesIyXXa2hqkU+1+iF2iGRMTiXac4C8d11NU\nnWGIR
CXFJAmsAQ+hQm7pmtsKdEqumj/PIOGXf0BoFVEWaIJIMEgnfuLzp8Iel1JQXn\nnSFJbk2ECgYE
+d5ooU4thZXy1WHUZqomaxyzOruA1T53UeH69HiFTrljvfwuaiqj\nn1HzPlhms6hxexwz1dzAp
gog/NOM+2bAc0rn0dqvtV4doejt1DZKRqrNcf/cuN2QX\nnjaCJC1CWau3sEHCCkLoHWeY4HaPS
oWq0GKlmKkKDChB4nWUYg3gSWQkCgYE9zuN\nnHW8GPS+yjixeKXmkK00x/vvxzR+J5HH5znaI
Hss48THyhzXpLr+v30Hy2h0yAlBS\nnn5Ja6wsomb0mVe4NxVtVawg2E9vVvTa1UC+TNmFBBuL
RPfjcnjDerrSuQ51YY+M\nnC9MJtxGfhp//G0bzwsRzzxOBsUJb15tppazIs9MCgYAJricpkKjM
0x1Z1jdvXsos\nnPilnbho4qLngrzuUuxKXEPEnzBxUoqCpwQgdzzLYw788TCVVIVXLEYem2s0
7dDA\nnDTo+WrzQNkvC6IgqtXH1RgqegIoG1VbgQsbsYmDhdaQ+os4+A0eQXw3vgAhJ/qNJ\nnjQ
4Ttw3ylt7FYkRH26ACWQKBgQC74Zmf4JuRLAo5WSZFxpccMvtnlvdutqUH4kXA\nnzPssy6t+QE
La1ffbAXkZ5Pg1ITK752aiaX6KQNG6qRsA3VS1J6drD9/2AofOQU17\nn+j0kGzmmoXf49Zj3iS
akwg0ZbQNGXNxEsCAUr0BYAobPp9/fB4PbtUs99fvtocFr\nnjs562QKBgCb+JMDP5q7jpUuspj
0obd/ZS+MsomE+gFAMBj71KFQ7KuoNezNFO+ZE\nn3rnR8AqAm4VMzqRahs2PWNe2H14J4hKu96
qNpNHbsW1NjXdAL9P7oqQIrhGLVdhX\nnInDXvTgXMdMoet4BKnfte1rXFKhgGqXJoczq4JWzGS
IHNgvkrH60\n-----END RSA PRIVATE KEY-----\n",
        "certificate": "-----BEGIN CERTIFICATE-----
\nMIIEdzCCA1+gAwIBAgIJAMwbIhWY43/zMA0GCSqGSIb3DQEBBQUAMIGDMQswCQYD\nnVQQGEw
JVUzELMAkGA1UECBMCT1YxFATBgnVBAcUDFZ1Z2FzLCBCYWJ5ITEhMB8G\nnA1UEChMYV2hhdc
BIYXBwZW5zIGluIFZ1Z2FzLi4uMS0wKwYJKoZIhvNAQkBFh53\nnaGF0aGFwcGVuc0B2ZWdhc3
N0YX1zaW4udmVnYXMwHhcNMTCwMzA4MjI1MDI2WhcN\nnMjcwMzA2MjI1MDI2WjCBgzELMAkGA1
UEBhMCVVMxCzAJBgNVBAgTAK5WMRUwEwYD\nnVQQHFAxWZWdhcywgQmFieSExITAfBgNVBAoTGF
doYXQgSGFwcGVucyBpbIBWZWdh\nncy4uLjEtMCsGCSqGSIb3DQEJARYed2hhGhhcHB1bnNAdm
VnYXNzdGF5c2luLnZ1\nnZ2FzMIIBIjANBgkqhkiG9w0BAQEFAAOCAQ8AMIIBCgKCAQEA8U+28f
nLKQNWEWMR\nn6akeDKuehSpS79odLGigI18q1CV/AUY5zLjqstjBvTJVRv44yoCTgNrx36U7FH
P4\nnt6P/Si0aYr4ovx15wDpEM3Qyy5JPB7Je1OB6AD7fmiTweP20HRYpZvY+Uz7LYEFC\nnmrgp
GZQF3i0SiChtLKE5186JVT6j5dg6yjUGQO352ylc9HXHcn6lb/jy10DmVNU\nnZ0caQwAmIS3J
moyx+zj/Ya4WKq+2SqTA7bX0F3wHHfXnZ1HnM8fET5N/9A+K61S\nn7dg9cyXu4afXcgKy14Ji
NBvqbBjhgJtE76yAy6rTHu0xM3jjdkcb9Y8miNzxF+AC\nnq+itawIDAQABo4HrMIHoMB0GA1Ud
DgQWBBrvvBRPno5S34zGRhrnDJyTsdnEbTCB\nnuAYDVR0jBIGwMIGtgBRvvBRPno5S34zGRhrn
DJyTsdnEbaGBiaSBhjCBgzELMAkG\nnA1UEBhMCVVMxCzAJBgNVBAgTAK5WMRUwEwYDVQHFAxW
ZWdhcywgQmFieSExITAf\nnBgNVBAoTGFdoYXQgSGFwcGVucyBpbIBWZWdhcy4uLjEtMCsGCSqG
SIb3DQEJARYe\nnd2hhGhhcHB1bnNAdmVnYXNzdGF5c2luLnZ1Z2FzggkAzBsifZjjf/MwDAYD
VR0T\nnBAUwAwEB/zANBgkqhkiG9w0BAQUFAAOCAQEAhVND5s71mQPECwVLfiE/ndtIbnpe\nnMq

```

```

o5geQHChnNlu5RV9j8aYH9kW2qCDJ5vueZtZ2L1tC4D7JyfS3714rRo1FpX6N\niebEgAaE5e
WvB6zgiAcMRIKqu3DmJ7y3CFGk9dHO1Q+WYnoO/eIMy0coT26JB15H\nnDEwvd1+DwxnS1cx1v
ERv51g1gua6AE3tBrlov8q1G4zMJboo3YEwMFwxLkxAFXR\nnHgMoPDym099kvc84B1k7HkDGHp
r4tLfVelDJy2zCWIQ5ddbVpyPW2xuE4p4BGx2B\nn7ASOjG+DzUxzwaUI6Jzvs3Xq5Jx8ZAjJDg
10QoQDWND0TeRBsz80nwiouA==\n-----END CERTIFICATE-----\n"
},
"id" : 2
}

```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id" : 2,
  "result" : {}
}
```

## 新規導入バージョン

10.0

## SnmpSendTestTraps のことです

「`nmpSendTestTraps`」を使用すると、クラスタの SNMP 機能をテストできます。このメソッドは、クラスタに対して、現在設定されている SNMP マネージャにテスト用の SNMP トランプを送信するよう指示します。

### パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
ステータス	テストのステータス。	文字列

### 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
    "method": "SnmpSendTestTraps",
    "params": {},
    "id": 1
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
    "id": 1,
    "result": {
        "status": "complete"
    }
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

## TestAddressAvailability の値

「TestAddressAvailability」メソッドを使用すると、特定の IP アドレスがストレージクラスタ内のインターフェイスで使用されているかどうかを確認できます。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
インターフェイス	ターゲットのネットワークインターフェイス (eth0、Bond10G など)。	文字列	なし	はい。
住所	ターゲットインターフェイスでスキャンする IP アドレス。	文字列	なし	はい。
virtualNetworkTag	ターゲットの VLAN ID。	整数	なし	いいえ

名前	説明	を入力します	デフォルト値	必須
タイムアウト	ターゲットアドレスをテストするためのタイムアウト(秒)。	整数	5.	いいえ

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	説明	を入力します
住所	テストした IP アドレス。	文字列
利用可能	要求した IP アドレスが使用中の場合は true、使用中でない場合は false。	ブール値

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "TestAddressAvailability",
  "params": {
    "interface": "Bond10G",
    "address": "10.0.0.1",
    "virtualNetworkTag": 1234
  }
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "address": "10.0.0.1",
    "available": true
  }
}
```

## 新規導入バージョン

11.0

## 著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を隨時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5225.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。